

第70回地域農林経済学会大会（オンライン大会）のご案内

2020年6月23日

地域農林経済学会

第 70 回地域農林経済学会大会を下記の要領で開催いたします。会員の皆様はもとより、非会員の皆様もぜひご参加ください。

1. 期 日 2020年10月10日(土)~10月11日(日)

(編集委員会・理事会は10/9(金)に開催されます。)

2. 日程

第 70 回地域農林経済学会大会はオンラインで開催いたします。Zoom を用いる予定にしております。各プログラムの URL・パスワード等は後日学会 HP 上にてご案内いたしますので、ご確認ください。

2-1. 全体プログラム

【第 1 10 月 10 日(土) 個別報告・大会シンポジウム・
目】 総会

- | | |
|-----------|---------------------------|
| ○個別報告 | [9:00～11:50] |
| ○会長講演 | [13:00～13:15] (大会シンポジウム内) |
| ○大会シンポジウム | [13:00～17:20] |
| ○総会 | [17:30～18:30] |

【第 2 10 月 11 日 (日) 個別報告／国際ミニシンポジ
日】 ウム

- 個別報告 [9:00～11:50]
○国際ミニシンポジウム [10:30～12:30]
○個別報告 [13:00～17:00]

※終了時刻は変更すること
があります

【その他】 10月9日(金)
編集委員会 [16:45~17:45]
理事会 [18:00~20:00]

10月10日(土)
大会シンポジウム打合せ [12:15～12:45]
10月11日(日)

個別報告優秀賞審査委員会 [17:30～18:30]

同打ち合わせ会議 [12:20～12:40]

2-2. 参加費用等

- ・大会参加費：無料

2-3. 個別報告等の申し込み、各問合せ先に関して

以下の web サイトで、各種受付を行います。期日までに申し込みをお願いいたします。なお、大会参加申し込み自体はありません。

個別報告申し込みおよび要旨提出（締め切り日時：8/10（月）23:00）

URL: <https://business.form-mailer.jp/fms/331d723232976>

個別報告「大会前原稿」の提出（締め切り日時：10/5（月）23:00）

URL: <https://business.form-mailer.jp/fms/f8970ece32990>

※詳細・各パスワードは、【別紙】を参照ください。

国際ミニシンポに関する問い合わせ先

jito@kais.kyoto-u.ac.jp 伊藤順一（京都大学）（国際担当理事）

個別報告申し込み、個別報告優秀賞応募に関する問い合わせ先

arfe-plan@googlegroups.com 地域農林経済学会企画担当理事

個別報告「大会前提出原稿」に関する問い合わせ先

editors@a-rafe.org 地域農林経済学会常任編集委員会

3. 大会シンポジウム

「次世代に向けての地域農林経済学の再検討－地域農林業の現場の新たな捉え方－」

10月10日（土）[13:00～17:20]

70 回記念大会を迎え、記念大会恒例の「地域農林経済学の現場の捉え方」「現場を捉えるための地域農林経済学のあり方」の再検討を行う。新たな令和の時代を迎え、ポスト・グローバリゼーションやポスト・コロナの未来を見据えた、次世代に向けての再検討になる。

「現場の新たな捉え方」として、これまで実験手法、マルチエージェントシミュレーション、社会実装型研究、アクションリサーチなどが紹介された。今回はビッグデータのマイニング手法に着目し、「AI を活用したシミュレーション」と「暗黙知の可視化・数値化」が紹介される。

前者の広井・福田による招待講演「AI を活用したシミュレーション」は、地域農林経済学が分析の焦点を当てる現場（地域・地域経済）の 30 年後の姿を想定するものでもある。昨年度、10～20 年後のポスト・グローバリゼーションの新たな価値観の下、「田園回帰」「地理的表示」などをめぐる今後の研究の重要性を論じた。本講演は、AI が示す日本社会の「持続可能シナリオ」として、田園回帰や農業・農村復興の重要性を強調する。

会長講演「地域農林経済学が分析対象とする「地域」とは」と、上記の招待講演を受け、副会

長の秋津・浅見を交えた4名を主体として、ポスト・グローバリゼーションの未来における地域農林業の現場の変容や、その新たな現場を分析対象とする次世代にとっての地域農林経済学のあり方（課題）をめぐる「ディスカッション1」を行う。

後者の南石による報告1「暗黙知「匠の技」の可視化・数値化」は、地域農林経済学の特質である、「地域（現場の課題解決）への貢献」や「研究者と実践者の交流・切磋琢磨」の度合いが高い研究の紹介でもある。社会実装型の1事例として位置付けることもできよう。

さらに駄田井による報告2「課題への異なる視点からのアプローチ」は、同じく地域農林経済学の特質の1つである、量的アプローチと質的アプローチの補完関係や学際的分析、それらのための共同研究の重要性を論ずるものである。

地域農林経済学の望ましいあり方を示唆するこれら2報告を受けて、実践者として報告1の研究に参加する若手稲作経営者の横田、企画副委員長の中村、編集委員長の河村、若手研究者の山下・本田・木原を交えて、次世代に向けた地域農林経済学会のあり方について検討するのが「ディスカッションII」である。

1. 会長講演 北川太一（摂南大学農学部） 13:00～13:15
地域農林経済学が分析対象とする「地域」とは—先行議論の整理と未来像—
2. 座長解題 辻村英之（京都大学農学研究科） 13:20～13:35
3. 招待講演 広井良典（京都大学こころの未来研究センター）
福田幸二（日立京大ラボ） 13:40～14:10
持続可能性の条件としての分散型社会システムと田園回帰・コミュニティ—
—「AIを活用したシミュレーション」が示す30年後の農村地域—
4. ディスカッション1 14:15～15:00
ポスト・グローバリゼーションの時代における地域農林経済学のあり方
—「地域」の変容と新たな分析方法・課題—
北川太一 福田幸二 秋津元輝（京都大学農学研究科） 浅見淳之（京都大学農学研究科）
5. 報告1 南石晃明（九州大学農学研究院） 15:10～15:40
研究者と農業経営者の「共働」によるスマート水田農業モデルの構築
—農匠ナビプロジェクトによる暗黙知「匠の技」の可視化・数値化と技術継承支援—
6. 報告2 駄田井久（岡山大学環境生命科学研究科） 15:45～16:15
質的研究と量的研究との融合の可能性—課題への異なる視点からのアプローチ—
7. ディスカッション2「次世代に向けた地域農林経済学と学会のあり方」 16:20～17:20
南石晃明、駄田井久、横田修一（横田農場）、中村貴子（京都府立大学生命環境科学研究科）、河村律子（立命館大学国際関係学部）、山下良平（石川県立大学生物資源環境学部）、本田恭子（岡山大学環境生命科学研究科）、木原奈穂子（鳥取大学農学部）

4. 国際ミニシンポジウム・特別セッション

4-1. 国際ミニシンポジウム

10月11日（日）[10:30～12:30] October 11, 2020, 10:30～12:30

本大会では、以下のテーマで、国際ミニシンポジウムを開催いたします。

Community-Based Natural Resource Management

The past few decades have witnessed the proliferation of public concerns and scholarly works in the field of community-based natural resource management (CBNRM). A growing body of literature on this topic has addressed many of the relevant issues, including the collective action, common property resources management, the role of social capital, the impact on poverty alleviation, and so on. However, there still remains much to be learned about the core issues and challenges of CBNRM. A prominent feature of CBNRM is that it requires collective participation, which is a topic worth being addressed. Nevertheless, we have limited understanding of the factors that influence communal participation in the collective stewardship of natural resources. Also, CBNRM programs operating in collective circumstances face special challenges because the relationship between participation and effectiveness is more complex than in individual circumstances. Further, making collective engagement has the advantage of establishing joint-liability mechanisms with strong incentives for contract compliance. However, group engagement may perversely incentivize individual participants in the program to free ride on the efforts of other group members.

In this symposium, three professionals in this field show their empirical results, which has important policy implications not only for Japan but also for the emerging economies in Asia. The hosting body, the Association for Regional Agricultural and Forestry Economics, provides fellow members with an opportunity to give some thoughts to this topic of academic and practical importance.

Moderators:

Keshav Lall Maharjan (Hiroshima University)

Junichi Ito (Kyoto University)

Speakers:

Kei Kajisa (Aoyama Gakuin University)

Tadayoshi Masuda (Kindai University)

Katsuya Tanaka (Shiga University)

なお、質疑応答では日本語でも行うことができます。

国際ミニシンポジウムに関する連絡先：jito@kais.kyoto-u.ac.jp 伊藤順一（京都大学）

5. 個別報告

10月3日（土）

報告者・座長など接続点検

（時間帯は後日学会 HP で連絡します）

10月10日（土）[9:00～11:50]（終了時刻は変更することがあります。）

10月11日（日）[9:00～11:50 13:00～17:00]（終了時刻は変更することがあります。）

（個別報告優秀賞対象報告を含みます。）

個別報告優秀賞の受賞者は後日学会 HP にて公表します。なお、授賞者の表彰は郵送により行います。

1. 報告は1件につき、30分（報告20分、質疑応答10分）を予定しています。
2. 同一筆頭報告者による報告は一報告に限ります。
3. 個別報告の申し込み方法、個別報告論文投稿等については、【別紙】の1・2を参照してください。

さい。

4. 個別報告優秀賞は、大会時点（2020 年 10 月 10 日時点）で 37 歳未満の若手会員が対象です。個別報告優秀賞応募の方法については、【別紙】の 3 を参照してください。

【別紙】

各申し込みの先の URL・提出期限および連絡先一覧

個別報告申し込みおよび要旨提出（締め切り日時：8/10（月）23:00）

URL: <https://business.form-mailer.jp/fms/331d723232976>

パスワード【20200810】

個別報告「大会前原稿」の提出（締め切り日時：10/5（月）23:00）

登録 URL: <https://business.form-mailer.jp/fms/f8970ece32990>

パスワード【20201005】

個別報告申し込み、プレゼン用ファイル提出、個別報告優秀賞応募に関する問い合わせ先

arfe-plan@googlegroups.com 地域農林経済学会企画担当理事

個別報告「大会前提出原稿」に関する問い合わせ先

editors@a-rafe.org 地域農林経済学会常任編集委員会

1. 個別報告の要旨原稿の様式・申し込み方法等に関して

（1）個別報告の要旨原稿の様式

1. 要旨原稿のフォーマットは、本学会HP (<http://a-rafe.org/>) の「学会誌」にある個別報告要旨様式（作成要領・見本）を参照して下さい。
2. 要旨原稿は、ワープロで作成したファイルを、必ずPDFファイルに変換して下さい（A4サイズ、1 枚）。

ファイル名は、下記の事例を参照して下さい。

例）（単独の場合） ○○大学・農経花子.pdf

（複数の場合） ○○大学・農経花子他.pdf

また、所属機関の書き方は、下記の事例を参照して下さい。

例）（社会人の場合） ○○大学、 ○○研究所

（大学院生の場合） ○○大学大学院

（学部学生の場合） ○○大学△△学部

（日本学術振興会特別研究員の場合） 学振特別研究員・○○大学

個別報告要旨は学会HP にアップロードします。

(2) 個別報告の申し込み方法

1. 申し込みおよび要旨原稿ファイル (PDFファイル) の提出は、webで行ってください。
2. フォームの「IX個別報告要旨のファイル (PDF 形式に限る) を添付してください。」の欄では、参照のボタンをマウスでクリックし、要旨原稿ファイルを選択して下さい。
3. 「送信する」のボタンを押した後、返信メールが、連絡先メールアドレスに送られる仕組みになっています。数時間たっても連絡先メールアドレスに、受付完了のメールが届かない場合には、再度申請をお願いいたします。
4. 「地域農林経済学会個別報告申請フォーム」入力に関しての質問は、電話では一切受け付けていません。また、入力ミスへの修正対応はできません。
5. 筆頭報告者には、会員の資格が必要です。非会員の方には、入会手続きをお願いいたします。個別報告の申込期限 (8 月 10 日 (月)) までに、入会金と年会費の納入が必要です。詳細は、地域農林経済学会 HP を参照ください。

(3) 個別報告で使用するプレゼンテーションファイル等に関して

本大会はオンラインで実施するために個別報告用プレゼンテーションファイルの事前提出は必要ありません。報告者各自で準備の上、報告時に画面共有でご提示ください。なお、任意で報告時に配布資料を用いる場合は、10 月 5 日 (月) 23 時まで下記にご提出ください。学会 HP にアップロードします。

URL: <https://business.form-mailer.jp/fms/f00f6dff124059>

パスワード【20201005】

- (4) 個別報告についての詳細は、8/10 以降に学会 HP 上にマニュアルを掲載いたします。

2. 個別報告論文としての投稿に関して

※詳細な投稿方法や原稿作成要領等については、学会 HP を随時参照してください。

1. 「個別報告論文投稿要領」(学会 HP に掲載) の 2 にしたがって、「大会前提出原稿」を作成し、10 月 5 日 (月) 23 時まで (郵送の場合は消印有効)、個別報告座長宛てに 1 部送付 (メールまたは郵送) して下さい。個別報告座長については、学会 HP で確認してください (9 月上頃掲載予定)。「大会前提出原稿」を作成する際には、学会 HP に掲載されている「個別報告論文テンプレート」を用いる必要があります。
2. 併せて、「大会前提出原稿」は、10 月 5 日 (月) 23 時まで、インターネット経由で提出してください (PDF ファイルに変換のこと)。
3. 当該 URL は、<<https://business.form-mailer.jp/fms/f8970ece32990>>です。パスワードを聞きますので、「20201005」と入力してください。

(当該パスワードは、極めて重要ですので、くれぐれも管理にご注意下さい。)

なお、本学会 HP の「研究大会」－「個別報告－申し込み要項」からも上記 URL にリンクしていますので、そちらから利用して頂くことも出来ます。

4. PDF ファイルには、下記のように名前を付けておいてください。

例) 報告者が、個別報告優秀賞に応募で、第 1 会場の第 1 報告の場合

(単独の場合) 特 0101・農経花子.pdf

(複数の場合) 特 0101・農経花子他.pdf

報告者が、一般報告で、第3会場の第6報告の場合

(単独の場合) 0306・農経花子.pdf

(複数の場合) 0306・農経花子他.pdf

5. ファイルの容量の上限は、3MBです。3MBを超えるファイルは、受け付けることができませんので、図や写真を圧縮するような工夫をして下さい。
6. 大会終了後に提出して頂くことになる個別報告論文の投稿方法・締め切り等については、大会前に常任編集委員会から投稿案内がメールにて送付される予定です(本学会HPでも告知します)。個別報告論文の書き方・提出方法等については、本学会HPに掲載される「個別報告論文テンプレートファイル」および「個別報告論文投稿要領」に従ってください。
7. 連名報告での報告者の順位と、個別報告論文での執筆者の順位は、同じでなければなりませんので、ご注意ください。

3. 個別報告優秀賞の応募方法について

個別報告優秀賞に応募される方は、「大会前提出原稿」の提出が必須です。「大会前提出原稿」の提出がない場合には、審査の対象になりません。

個別報告を申し込まれる際に、「地域農林経済学会個別報告申請フォーム」の以下の3項目に必要事項を記入し送信してください。

- 【Ⅷ個別報告優秀賞への応募を希望しますか?】
- 【「はい」と希望した場合には、2020年10月10日時点での筆頭報告者の年齢を入力してください。】
- 【今回の応募は、研究論文等として投稿中の研究ではありませんね?】

なお、個別報告優秀賞への応募できるのは、2020年10月10日時点での筆頭報告者の年齢が37歳未満の場合です。また、すでに研究論文等として投稿中の研究は応募できません。ご注意ください。